

Title	編集後記
Sub Title	
Author	樋口, 亜由美(Higuchi, Ayumi)
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2017
Jtitle	新版 窮理図解 No.26 (2017. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000026-0010

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

外国語はなぜ勉強するの？

杉山 由希子

みなさんが英語を勉強する理由はなんでしょうか。授業があるから？就職に有利だから？国際化の時代だから？

私が英語教員として英語を教えるとき、学生の皆さんには、英語をコミュニケーションツールとして使いこなして欲しいと思います。そしてそれに劣らず、言語を学ぶことそのものの面白さを知って欲しいと思います。

例えば世界の言語には、母音が3つし

かない言語がある一方、40近くある言語もあります。英語には、主格、目的格、所有格と3つの格がありますが、フィンランド語には15もの格があります。数についていうと、英語には単数と複数の区別があるだけでなく、数えられない名詞まであるのに対し、日本語は単数と複数の区別が曖昧です。さらに単数、複数に加えて両数というものがあり、数を3種類に分類する言語もあります。また、話すときに、発話内容の情報源（話者自身が見た、他人から聞いた、など）を示さなくてはいけない言語もあります。これらはほんの一例で、言語の多様性に感嘆せずにはられません。

好むと好まざるとにかかわらず、あるいはその是非はさておき、今や英語が世界の共通言語であることは否めません。しかし、英語教員である私が言うのはおかしいかも知れませんが、外国語の勉強が英語に一本化されるのは面白くないと思っています。

それぞれの言語には、その言語固有の文法や音があるだけでなく、価値観、文化が反映されています。話せる、使えるようにならなくても、言語は知れば知るほど奥深く、私たちの知的好奇心を満たしてくれます。

みなさんには功利主義に陥らず、いろんな言語に触れて欲しいと思います。

理 工 学 Information

理工学部の新しい試み ～高校生の保護者対象に「理工学部説明会」～

グローバル化とIT化が急速に進む現代のビジネスシーンでは、「1. 数字に強く」、「2. 高いプログラミング能力とITリテラシーを有し」、「3. 日英両言語による交渉が上手で」、「4. 大局観をダイナミックに見極めながら決断が下せ」、「5. 誰からも愛される」といった実力と人間性が求められています。過去に成功した大学教育が、これからも成功するとは限りません。

こういった時代の要請に応えるべく、慶應義塾大学理工学部では様々な新しい試みに取り組んでいます。

その取り組み内容をより多くの方々にこ

説明申し上げたく、理工学部への進学を検討している高校生向けの従来通りの見学会に加えて、今年度から新たに高校生の保護者の方を対象とする説明・見学会の開催を始めました。慶應義塾の一貫教育校である塾内高校向けの見学会はもとより、一般の方を対象とする理工学部オープンキャンパスにおいても、理工学部長および広報委員長が保護者対象の講演を行ってメッセージを発信するとともに、理工学部のある矢上キャンパスを自由に見学していただく機会を設けました。

新しい試みということで、保護者の方の参加人数の予想が全くつかなかったのですが、ふたを開けてみると、説明会に参加した高校生の約半分程度の保護者が参加するという大きな反響を得ることが出来ました。ご夫婦揃っての参加も多く見受けられ、保護者説明会後の質疑応答は極めて活発なものとなりました。また、キャンパス見学においては矢上キャンパスの先端性を心から実感していただくことが出来たかと思えます。



今後も、理工学部ではこうした説明・見学会などを開催して情報提供を続けていく予定です。開催に関する情報は理工学部ウェブサイト定期的に掲載いたしますので、ご興味のある方は是非チェックしてみてください。

<http://www.st.keio.ac.jp/>



編集後記

小柄な体いっばいに溢れんばかりのエネルギー、それが杉山先生の第一印象です。しかしながら、その溢れるエネルギーは決して威圧的なものではなく、明るくキラキラした陽光のよう。周囲への気配り、環境への目配りも行き届く女性ならではの繊細さを兼ね備えていらっしゃることも魅力です。トレイルランニングは趣味といえども本格派、ルートをプランニングするのも楽しいとキラキラした笑顔で語られる様子に、学生さんから慕われるのも納得、と感じました。

(樋口亜由美)

新版 窮理図解

No.26 2017 November

編集 新版窮理図解編集委員会
写真 邑口京一郎
デザイン 八十島博明、石川幸彦 (GRID)
編集協力 サイトテック・コミュニケーションズ
発行者 伊藤公平
発行 慶應義塾大学理工学部
〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1
問い合わせ先 (新版窮理図解全般)
kyurizukai@info.keio.ac.jp
問い合わせ先 (産学連携)
kl-liaison@adst.keio.ac.jp
web版 <http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai>
facebook <http://www.facebook.com/keiokyuri>